

## 令和5年度練馬区災害医療運営連絡会 会議要録

- 1 日時 令和6年3月25日（月）午後7時00分～8時00分
- 2 会場 練馬区役所本庁舎7階防災センター（一部、WEB参加）
- 3 出席 

三宅 康史 委員	（帝京大学医学部）
内田 寛 委員	（練馬区医師会）
齋藤 文洋 委員	（練馬区医師会）
浅田 博之 委員	（練馬区歯科医師会）
上原 正美 委員	（練馬区歯科医師会）
伊澤 慶彦 委員	（練馬区薬剤師会）
小田 真也 委員	（練馬区薬剤師会）
江原 秀夫 委員	（東京都柔道整復師会練馬支部）
後藤 正臣 委員	（東京都柔道整復師会練馬支部）
杉田 学 委員	（順天堂練馬病院）
岩崎 登 委員	（順天堂練馬病院）
光定 誠 委員	（練馬光が丘病院）
木村 優介 委員	（練馬光が丘病院）
本村 慎太郎 委員代理	（練馬警察署）
中川 英二 委員	（練馬消防署）
伊藤 悟 委員代理	（光が丘消防署）
森山 博之 委員	（石神井消防署）
富田 孝 委員	（地域医療担当部長）
枚田 朋久 委員	（危機管理室長）
石原 浩 委員	（保健所長）

### 【事務局】

屋澤 明夫	地域医療課長
山本 康介	防災計画課長
内田 勝幸	医療環境整備課長
佐藤 洋子	大泉保健相談所長

## 4 報告事項・議題

- (1) 令和5年度練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果について
- (2) 令和6年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について
- (3) 令和5年度訓練実施結果について

## 5 配布資料

- 資料 1-1 令和 5 年度 練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果について
- 資料 1-2 練馬区災害薬事コーディネーターおよび練馬区災害薬事センターの設置について
- 資料 1-3 練馬区災害薬事コーディネーター設置要綱
- 資料 2 令和 6 年度練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について（案）
- 資料 3 令和 5 年度訓練実施結果について

## 6 会議の概要

### (1) 令和 5 年度練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果について

⇒ 資料 1-1～1-3 について、事務局から説明

【委員】災害薬事センターと災害対策本部との情報共有方法など、実際の運用方法等について、関係者との調整が必要と考える。

【事務局】ご指摘のとおり、現時点では大枠での取り決めとなっている。運用方法などの詳細については、今後も関係者と協議しながら調整する予定である。

### (2) 令和 6 年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について

⇒ 資料 2 について、事務局から説明

【委員】練馬区地域防災計画の改正があったため、各師会マニュアルの更新が必要と考える。また、災害医療コーディネーターの具体的な運用を検討する必要がある。

【事務局】ご指摘のとおり、各委員にご協力をいただきながら検討を進めていきたい。

【委員】当院では災害対応のコミュニケーションツールとして、ラインワークスを導入していたが、能登半島地震への派遣職員の意見等を踏まえて、使い勝手の良いマイクロソフト社のチームズ（平常時の院内コミュニケーションツール）に変更した。将来的には、別ツールの移行も含めて検討していただきたい。

【事務局】ラインワークスの活用方法については、区としても課題と考えている。区が十分に活用できていないために、操作に慣れず使い勝手の悪さにつながっているなどの現状がある。まずはより適切な活用方法を検討し、ラインワークスの有効性を見定めていきたい。

【委員】ラインワークスを含めて様々な情報通信ツールを使っているが、使用感などの評価はどうしているのか。特に衛星携帯電話は発災時に有効活用するのは難しいと感じている。

【事務局】現状では評価を実施していない。6年度の課題として対応していきたい。

(3) 令和5年度訓練実施結果について

⇒ 資料3について、事務局から説明

【委員】衛星携帯電話通信訓練の結果で、通信環境が悪く訓練が実施できなかったとあるが、具体的な要因は把握しているのか。衛星携帯電話は通信手段の最後の砦になるが、適切に通信するためには制限が多いと聞いている。

【事務局】区側の通信環境は問題なかったが、病院側において、遮蔽物の影響を受けたと報告を受けている。衛星携帯電話を活用した災害時の連絡体制は東京都が主体となって整備したが、通信状況の悪さについては区としても課題と考えている。東京都の動向を探りながら、代替手段を含めて改善方法等を検討する予定である。

【委員】東京都図上訓練について補足する。

東京都と災害基幹病院に設置されている地域災害医療コーディネーター本部との間の通信訓練であり、本部では、4区からの派遣職員（リエゾン）、災害基幹病院スタッフ、DMAT、DPAT、周産期・新生児リエゾンが1つの部屋で1つのクロノロジー画面を中心にして時系列で情報の受取りと発信を行った。

【委員】医療救護所訓練の報告でトリアージをもっと訓練したいという意見があったことについて、区主催の大規模なトリアージ訓練等の開催を提案する。（年に1回または2年に1回程度の頻度）

薬剤師会ではNMAT養成プログラムでトリアージ実習をしているが、始めた当初と比べると回数を重ねるごとに緊張感が減少していることから、各師会や区職員とが合同で訓練することで緊張感のある効果的な訓練ができるのではないか。

【事務局】まずは薬剤師会の取組みをヒアリングさせていただき、そのうえで適切な方法等を検討していきたい。

【委員】ツアー方式の医療救護所訓練を始めて数年経過したが、参加者アンケート結果を見る限り、自身が担当する業務の訓練時間が短いというデメリット部分への意見がある。以前の方式に戻すことも含めて改善方法を検討していただきたい。

【事務局】ツアー方式のメリットも十分にある。より良い方式を今後検討していきたい。

7 その他

⇒ 意見なし

【会長】案件は以上であるが、その他委員からご意見等はあるか。ほかになければ、今年度の災害医療運営連絡会は閉会とする。